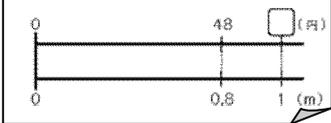
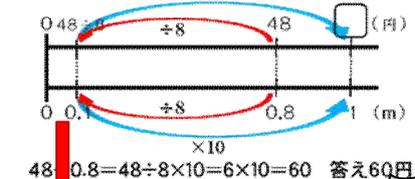
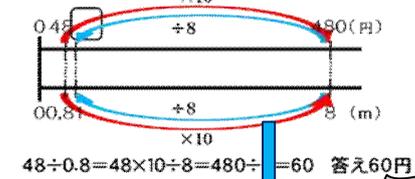


4 本時について(2/13)

(1) ねらい：除数が純小数の場合でも、除法の式に表せることを数直線をもとに理解し、既習の整数÷帯小数をもとにその計算方法を考える算数的活動を通して、被除数と除数を10倍して考えるよさに気づき、計算することができる。

(2) 本時の展開例

段階	主な学習活動	指導・援助
つかむ	<p>問題 りぼん0.8mの代金が48円でした。このリボン1mのねだんはいくらでしょう。</p>  <p>1 問題場面を把握し、課題づくりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> もし2mで48円なら $48 \div 2$ となりわり算だから、小数でもわり算だと思う。 数直線に表してみると、は(図中で)ここになる。 1mあたりのねだんを求めるのでわり算だから、式は $48 \div 0.8$ になる。 前の学習と違って、わる数が1より小さくなった。 わり算だけど答えは48より小さくなるのかな。 でも前と同じように、10をかけてわる数を整数にすればできそう。 今日は、(整数)÷(1より小さい小数)の計算ができるようになりたいな。 <p>2 課題を設定し課題追究に向かう。</p> <p>課題 (整数)÷(1より小さい小数)の計算の仕方を考えよう。</p> <p>3 個人追究で自分の考えをつくる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="183 1019 630 1265"> <p>①0.1mをもとにして考える</p>  <p>$48 \div 0.8 = 48 \div 8 \times 10 = 6 \times 10 = 60$ 答え60円</p> </div> <div data-bbox="646 1019 1093 1265"> <p>②8mをもとにして考える</p>  <p>$48 \div 0.8 = 48 \times 10 \div 8 = 480 \div 8 = 60$ 答え60円</p> </div> </div> <p>③10倍して考える</p> $48 \div 0.8 = (48 \times 10) \div (0.8 \times 10) = 480 \div 8 = 60 \text{ 答え60円}$	<ul style="list-style-type: none"> 数直線で数量関係を表すことで、商の見当をつけ、計算の方法の見通しがもてるようにする。 前時に学習した(整数)÷(帯分数)の計算の仕方を想起させ、本時との違いに気付かせる。 除数の小数の大きさが、1より小さくなっているという発言を価値付け、課題につなげる。 除数が既習の帯小数のときと同じように、小数のしくみや計算のきまりを使って計算すればよいという見通しのもとに個人追究に入る。 個人追究では、数直線でつまずく児童には既習と同じようにできそうか考えさせ、商がどこになるかを問い、矢印を書き込むことで式につながるよう助言する。
見つける	<p>4 自分の考えを相手に伝える活動を通して考えを深める。(全体追究)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="183 1467 502 1601" style="border: 1px solid red; padding: 5px; background-color: #f8d7da;"> <p>0.1を求めてから、10倍しているから、他の2つとは違うね。</p> </div> <div data-bbox="518 1467 1093 1601" style="border: 1px solid blue; padding: 5px; background-color: #d1ecf1;"> <p>わる数とわるる数をそれぞれ10倍どちらも $480 \div 8$ の式で計算している。10倍することで整数のわり算にしている。</p> </div> </div> <p>・わるる数より商が大きくなっているけれど、これでいいのかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 商の見当付けをすることのよさをおさえ、わられる数より商が大きくなることに気付かせる。(数直線でも確認する)
確かにする	<p>問題2 $9 \div 0.2$ $27 \div 0.5$</p> <ul style="list-style-type: none"> わる数とわるる数をそれぞれ10倍して計算する方法は、どんな式の時にもわる数が整数になるから計算ができる。 今までのわり算と違って、どの商もわるる数より答えが大きくなっている。 <p>5 明らかになったことを整理し、大切な考え方をまとめる。</p> <p>まとめ (整数)÷(1より小さい小数)の計算は、わる数とわるる数を10倍して、わる数を整数に直せば計算ができる。また、わる数が1より小さいと、わり算をしても商がわるる数より大きくなる。</p> <p>6 本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2問目を解くことで、「速い」「簡単」「いつでも言える」などの観点(妥当性・共通性)から、どんな問題でも使える方法を見つけ出す。(一般化) 児童自らが、次時の筆算の仕方とつながることに気付けるよう、の考え方の計算の簡潔さを充分味わわせる。

